令和６年９月６日

畜産生産情報　第５号

青森県「農林水産力」強化本部

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎適期収穫と正しい調製作業で良質な自給飼料を確保しよう。

乳用牛

◇　牛群検定成績を活用した飼育管理の改善

１　乳成分

乳成分は個体の栄養状態を表しており、一般に乳タンパク質率（P）は飼料のエネルギー（でんぷん、糖）の利用状況、乳脂率（F）は粗飼料の利用状況を反映しており、その比率 P/F 比が 0.7 以下または 1.0 以上の牛は、代謝障害の可能性があるため、注意して観察し、必要に応じて治療する。

特に、分娩後 60 日以内で乳脂肪率が 5.0%以上と高い場合は、体脂肪が急激に動員されていることを示し、脂肪肝の可能性も考えられることから、注意する。

また、乳タンパク質率と MUN（乳中尿素態窒素）から、飼料中の炭水化物とタンパク質を調整する。

２　体細胞数

乳質を改善するためには、個体別に体細胞数を把握することが重要である。泌乳後期や高産次の牛で体細胞数が高い傾向にある場合は、過搾乳や真空圧不足などの搾乳ストレスがないか見直す。

また、分娩１週間前の乳房が張り始めた頃に、乳汁性状の確認や PL 検査を行い、乳房炎が疑われた場合には、直ちに獣医師に治療を依頼する。この場合、初乳を子牛に飲ませることはできないが、薬剤が分娩日まで乳房内に留まるため、泌乳期の治療よりも大きな効果が見込める。なお、分娩前に治療した場合は、生乳の出荷前に抗生物質残留検査を確実に実施する。

分娩直後に体細胞数が高い傾向にある牛は、乾乳期に乳房炎に罹患した可能性が高いことから、乳頭口が開きやすい乾乳初期や分娩直前にディッピングを行うことが効果的である。

３　標準乳量

標準乳量とは、異なる条件下にある牛の１日当たりの乳量を比較するために補正した乳量で、暑熱対策などにより飼養管理を変更した場合は、標準乳量でその効果を確認する。また、飼養管理を変更していないにもかかわらず、標準乳量が急落した場合は、粗飼料の劣化や乳房炎の蔓延などが考えられることから、その原因を調査し改善に努める。

肉用牛

◇　肥育牛の飼育管理

１　飼育環境

飼育密度は、全頭が横になれるように１頭当たり５～６㎡を確保し、定期的に敷料を交換して、呼吸器病の要因となるアンモニアの発生を防ぐ。飼槽内の食べ残しは除去して清潔に保つとともに、こまめに給水器を清掃し、牛が常に新鮮な水を飲めるようにする。

外気温が常時25℃を超えると、暑熱ストレスにより生産性が低下するため、牛舎の窓や出入口への遮光ネットの設置、送風機などにより体温上昇を防ぐ。

２　ビタミンおよびミネラルの補給

肉質（サシ）を改善する目的で飼料中のビタミンＡコントロールが行われるが、夏季は血液中ビタミンＡ濃度が低下しやすいので、欠乏症状（盲目や四肢関節の腫脹、食欲低下）に注意し、早めのビタミンＡ剤投与を心がける。また、暑熱ストレスやビタミンＡ欠乏等により肝機能障害が起こりやすいことから、食欲不振に注意し、必要に応じてビタミン剤や強肝剤の利用により改善を図る。

ミネラルのバランスが崩れ、尿のpHがアルカリ性に傾くと、尿中ミネラルが結晶化して尿石症を発症しやすくなる。特に去勢牛は尿道が詰まりやすいので、塩化アンモニウム含有飼料の給与等で予防を図るとともに、尿が細くなったり、排尿を痛がる場合は、かかりつけの獣医師に相談する。

３　肺炎や下痢の予防

飼育環境に留意するほか、ワクチンの適切な活用は予防効果が高いので、かかりつけの獣医師又は家畜保健衛生所に相談する。

また、出荷などで牛舎が空になる時期に、舎内の清掃・消毒を行う。特に石灰乳の塗布は効果が高い。

豚

◇　衛生管理

県内の野生イノシシでの豚熱陽性個体が確認されていることから「飼養衛生管理基準」を遵守し、特に次のことを徹底する。

１　部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、衛生管理区域への出入りが必要な場合には立ち入った者を記録するとともに車両を含め消毒を徹底する。

２　病原体を豚舎内に持ち込まないようにするため、豚舎出入口に消毒設備を設置し、出入の際の手指の洗浄及び消毒に加え、踏込み消毒槽を設置し、靴等の消毒を徹底するとともに、豚舎ごとに専用の作業衣・靴等を着用する。

３　豚舎へのいのしし等の野生動物の侵入や接触の防止を徹底するため、防護柵の破損部は速やかに修理するとともに、排せつ物や汚泥等が飼料や飲水に混入しないようにする。

4　日常の観察を徹底し、異常豚の早期発見に努めるとともに、発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

◇　人工授精による効率的な肉豚の生産

1　人工授精の活用により、産肉性に優れ、斉一性の高い肉豚を生産するとともに、種雄豚を介する疾病の予防や種雄豚の飼養頭数を減らすことにより、コストを低減する。

2　人工授精用精液は、宅配便による流通方式が確立され、種豚場からの入手が可能である。

3　母豚群と止め雄の形質を適合させるために、種豚場と相談して使用する精液を選択する。

4　精液は５～15℃で保存すれば７～14 日は良好な状態を保持できるが、種豚場ごとに保存の最適温度と期間が異なるので確認をする。

5　精液到着後は、直ちに指定された温度条件で衛生的に保存し、保存期間が長くなると精子活力が低下するので、できるだけ早めに使用する。

鶏

◇　衛生管理

「飼養衛生管理基準」を遵守し、特に次のことに心掛ける。

1　部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、衛生管理区域への出入りが必要な場合には消毒を徹底する。

2　病原体を鶏舎内に持ち込まないようにするため、鶏舎出入口に消毒設備を設置し、出入の際の手指の洗浄及び消毒に加え、踏込み消毒槽を設置し、靴等の消毒を徹底するとともに、鶏舎ごとに専用の作業服・靴等を着用する。

3　鶏舎への野生動物の侵入防止を徹底するため、鶏舎の破損部は速やかに修理するとともに、開放部分には網目の隙間が２㎝以下の防鳥ネット等を設置する。また、農場敷地内のため池等については野鳥の飛来防止対策を講じるほか、排せつ物等が飼料や飲水に混入しないようにする。

4　日常の観察を徹底し、異常鶏の早期発見に努めるとともに、異常鶏を発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

◇　青森シャモロック飼養管理のポイント

1　鶏の闘争を防ぐとともに肉質の向上を図るため、飼育密度はマニュアルに沿って１㎡当たり５羽以下とする。

2　尻つつきや羽つつきなどの悪癖を防止できない場合は、ビークトリミングを行う。その際は、熟練した者が可能な限り若齢の時（１０日齢以降）に実施し、必要最小限の部分のみを取り除くよう注意する。

3　胸ダコの発生を防ぐため、敷料は 10 ㎝以上の厚さにする。また、通気を良くし、敷料が湿らないように心がける。

◇　トウモロコシサイレージの調製

1　収穫適期

（1）トウモロコシの収穫は、子実の登熟状況を確認し栄養収量が最大で、かつ、サイレージ発酵に最適な水分 70%程度になる黄熟期に行う。ただし、細断型ロールベーラで梱包し、多段積みで貯蔵する場合は、ベールの変形を抑制するため、水分含量が67%程度に低下する黄熟後期に収穫する。

（2）黄熟期の判定は、以下を目安に行う。

ア　絹糸が出てから早生品種で約 40 日、中生品種で約 50 日経過した頃。

イ　雌穂を包む苞皮（外側の皮部分）が黄白色になり、子実の表面が硬化し、爪をたてても内容物が出なくなった頃。

ウ　ミルクライン（雌穂中央部の子実の黄色部と乳白部分の境目）がほぼ中央に達した頃。

2　収穫と詰込み

（1）コーンハーベスタの刃の切れ味が悪いとサイレージの密度が低下し、不良発酵及び細断型ロールベールの変形の原因となることから、こまめに刃の研磨を行う。

（2）刈り取りは当日中に密封できる面積とする。

（3）固定サイロでは、踏圧、加重を十分行い、詰め込み後は速やかに密封する。

（4）気密サイロや塔型サイロなどでは、詰め込み作業中の有毒ガス（二酸化窒素）の発生や酸欠に注意し、換気を怠らない。

（5）細断型ロールベーラ体系では、ラップフィルムを８層巻きとする。

◇　稲ホールクロップサイレージの調製

1　収穫適期

（1）収穫時期は予乾体系では糊熟期、予乾を行わないダイレクトカット体系では黄熟期が適している。

（2）熟期判定の目安は以下のとおりである。

熟　期	出穂後日数	稲の状態
糊熟期	15～25 日頃	籾は黄緑色で穀粒は葉緑素が残り黄緑色。胚乳は糊状。
黄熟期	30～40 日頃	籾は黄色または褐色で穀粒は葉緑素が消失し黄色。胚乳はロウ状。穀粒は爪で容易に破砕できる。

2　収穫、調製法

（1）専用収穫機で収穫・調製する場合は、予乾が行えないので、水分が十分低下した黄熟期に行う。

（2）通常の牧草収穫作業機でロールベールサイレージに調製する場合は、土砂の混入による発酵品質の低下や脱粒による収穫ロスを防ぐため、予乾・反転作業回数は１回にする。

（3）ラップフィルムは気密性を保持するため６層巻きとする。

◇　飼料向け稲わらの収集

1　乾燥利用

（1）貯蔵中の品質劣化を防ぐため、稲わらは、ほ場内で十分に乾燥する。乾燥促進のため、長わらや長カットわらはテッダにより１～２回反転する。また、ノッタ等で結束した稲わらは、地干しなどにより乾燥を進める。

（2）十分に乾燥したら、レーキにより集草し、ロールベーラで梱包する。梱包後は速やかにほ場から搬出する。

（3）ほ場から搬出した稲わらは、風通しの良い納屋等に収納する。屋外に貯蔵する場合はビニールシート等で被覆して雨水の浸入を防ぐ。また、乾燥が不十分なまま梱包した稲わらはラップフィルムで密封する。

2　サイレージ利用

（1）十分な乾燥が見込めない場合は、サイレージとして調製する。

（2）稲刈り後、当日あるいは２、３日以内に稲わらをロールベーラで梱包する。土壌水分が高く、テッダ、レーキ作業による稲わらへの土壌の付着が懸念される場合は、コンバイン排出わらを直接梱包する。

（3）ラップフィルムは機密性保持のため６層巻きで密封する。

（4）稲わらは天然の乳酸菌の付着が少なく、また、乳酸発酵の基質となる糖類が少ないため、繊維分解酵素入り乳酸菌製剤の利用が望ましい。

農業保険

農業保険に加入し、様々なリスクに万全の備えを！！

農業保険（家畜共済・収入保険）などに加入し、様々なリスクに備えること。

◇　家畜共済

①死亡廃用共済：家畜が死亡、廃用となった場合に、家畜１頭ごとの資産価値を補てん

②疾病傷害共済：家畜が疾病、傷害をおった場合に、診療費の９割を補てん

◇　収入保険

農業者の経営努力では避けられない収入減少を、直近５か年の収入を基準に補てん

農業保険には、加入資格者の要件や事故除外方式があるほか、牛マルキンや加工原料乳生産者経営安定対策など同時加入できない制度があるため、詳細は近くの農業共済組合へ問い合わせのこと。